

より良い科研費申請支援を目指して ～科研費改革への対応～

2015年3月24日
第10回新潟大学研究推進セミナー
「新潟大学URAシンポジウム」

新潟大学
研究企画室URA
Email: rao2@adm.niigata-u.ac.jp

① 個別支援 (対象：希望者)



研究者1名に対しURA2名がじっくり支援。

- ・ 面談
- ・ 申請書を精読し改善策を提案 (校正、編集、作図など)



約30件実施

② URAチェック (対象：ほぼ全件)



審査員に正しく・素早く内容を理解してもらえるよう
基本的な体裁と記載項目を確認する簡易チェック。
従来の事務チェック (全体の事務的確認) と並行して実施



約750件実施

③ 情報提供 (対象：全学)



- ・ 各学部科研費説明会で部分的に説明を担当
- ・ URAのHP内に科研特設ページ開設
- ・ よろず問合せ対応



約50件の
問合せに対応

従来より：事務部局のサポート、各学部ごとの取組み (研費説明会など)、
科学研究シニアアドバイザー制度 (学部ごとに数名のシニア研究者が任命されている) など

- ▶ 特に、個別支援を行った若手Bの採択率が個別支援なしに比べ**2倍近い高採択率**を記録!!

もともと「やる気」のある先生が個別支援を申し込んでいると思われますが…

↓
大学全体の配分額・採択数・採択率UPに貢献

- ▶ URAチェックや科研費説明会などにより、**URAの認知度**がUP!!
別の公募でも支援依頼受けるなど活動が活発に

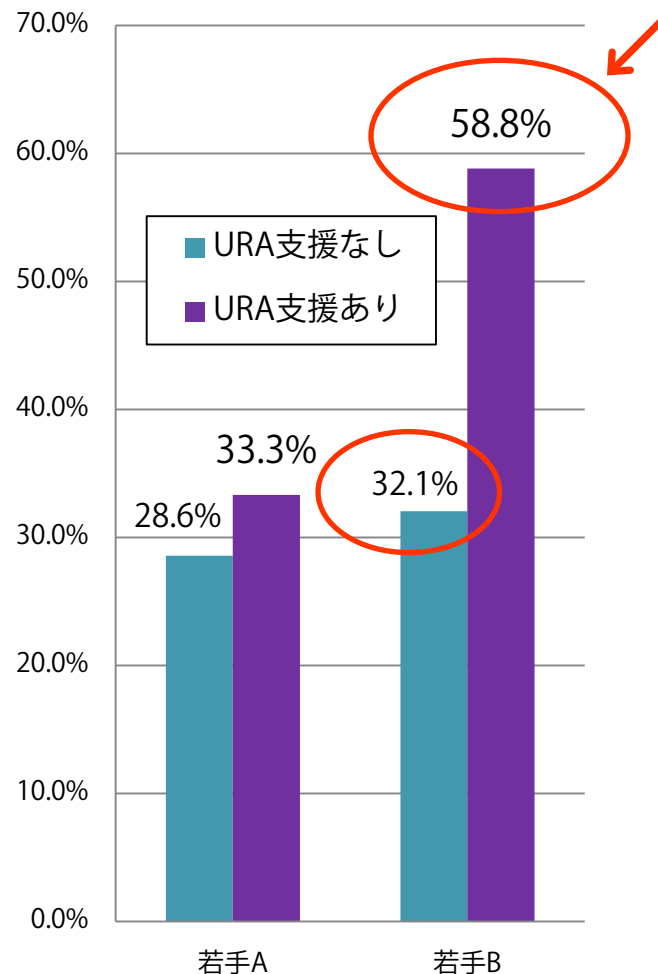
一部炎上も!?

- ▶ 科研費制度の理解し、学内の多くの研究活動を知ることができ、**URA自身の大きな収穫**に!!

アンケート結果も励みになりました。

↓
次の科研費申請支援に反映 (PDCAサイクル)

若手種目採択率比較



前年からの
継続メニュー

① 個別支援



約40件
実施

- ・夏ごろから開始
- ・特に若手

② URAチェック



約10件
実施

- ・全件から希望者のみへ
- ・チェックリストを公開

③ 情報提供



全体の分担見直し、HPへの
情報の集約

- ・HPでの情報提供
- ・問合せ対応など

+

④ シニア研究者ヒアリング (URAの科研支援準備、勉強として)

⑤ 若手研究者向け科研費説明会の企画・実施

- ・自然科学、人社教育、医歯学の各学系（分野）でそれぞれ開催
- ・研究担当理事の（叱咤）激励講演
- ・シニア研究者が採択のポイントを参加者にシェア

合計約120名
が参加

⑥ 科研費採択申請書ライブラリーの設置

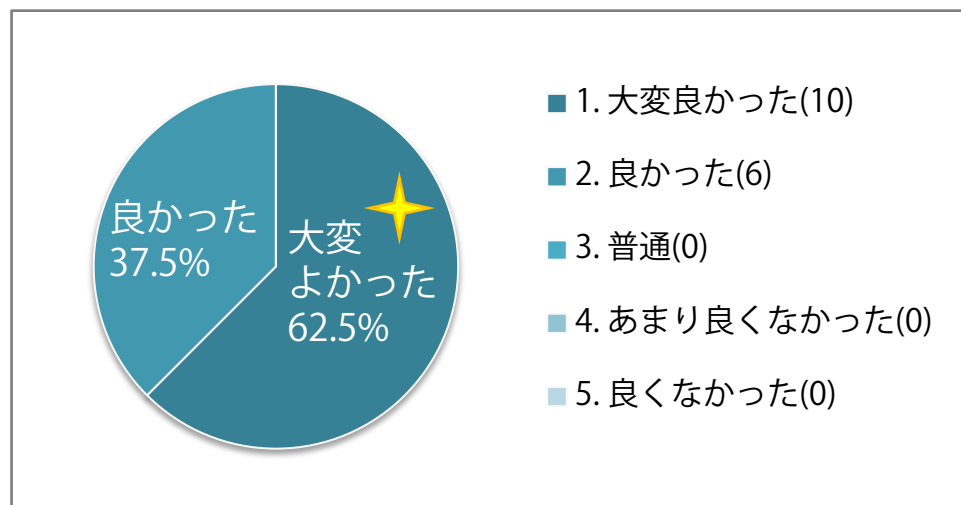
- ・承諾を得た研究者の過去の採択申請書を希望者に提供（学内限定）

新規企画

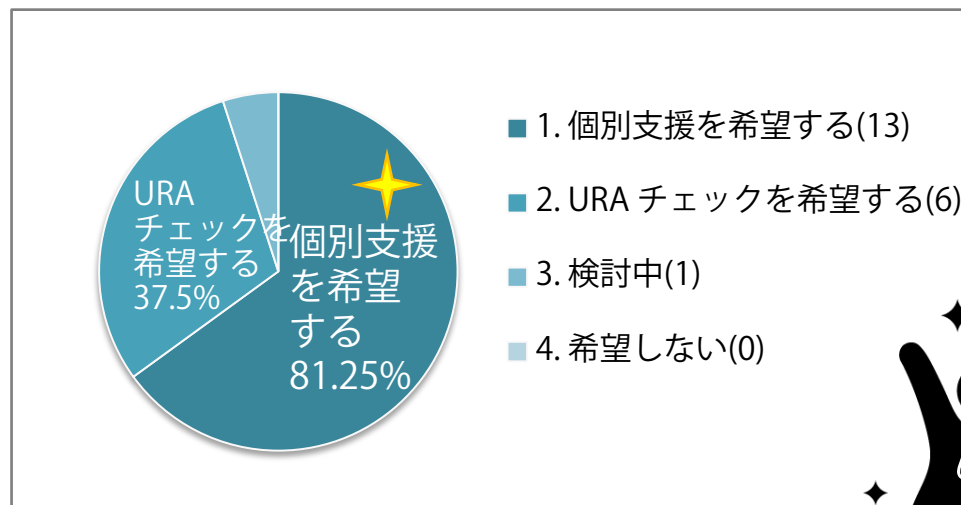


そろそろ結果が…

◎URA個別支援の感想



◎次回もURA支援を希望しますか？ (複数回答)



※未回答者の声を集めることが重要!!



事前に個別相談に乗っていただき、頭の中の整理になったり新しい視点を提供してもらえた。

若手向け説明会のシニア研究者の講演で、科研の取り方の様々な戦略があることがわかりました。

第三者が読んで分かりにくいであろう部分を指摘して頂いたことが良かった。

複数回に渡って大変丁寧に査読をして頂き、率直な意見を頂きました。

時には厳しいアドバイスも必要。故に、URAの職務機能上げるには、任期は短期間ではなく出来るだけ長期間の方が良いと思います。

アドバイスが漠然としていました…。

採択結果が出ないと、なんとも言えません。



○『日本再興戦略』改訂2014－未来への挑戦－（平成26年6月24日閣議決定）

「イノベーション創出のためには、研究者の独創的で多様な研究やコア技術の研究開発を推進し、技術シーズ創出力を強化する必要がある。若手や女性研究者が研究に挑戦する機会の拡大や、競争的な研究開発環境の整備のため、科学研究費助成事業をはじめとした研究資金制度の改革に着手する。」

○科学技術イノベーション総合戦略2014（平成26年6月24日閣議決定）

「特に、我が国の代表的な競争的資金制度である科学研究費助成事業（科研費）については、より簡素で開かれた仕組みの中で、「知」の創出に向けて、質の高い多様な学術研究を推進するとともに、各分野の優れた研究を基盤とした分野融合的な研究や国際共同研究、新しい学術領域の確立を推進するための審査分野の大括り化や審査体制などに係る改革を目指す」

2014年8月「我が国の学術研究の振興と科研費改革について」（中間まとめ）概要より

- 大学政策、学術政策、科学技術・イノベーション政策が連携しながら、基盤的経費と競争的資金の両面で大学の教育研究を支えるという「デュアルサポートシステム」の「再生」を図ることが必要。
- 競争的環境の中で大学の研究活動を支える研究費として独自の重要な役割を担っている科研費は、成熟社会における学術研究のあるべき姿（挑戦性、総合性、融合性、国際性）を見据えながらの議論が必要。

「不易たるもの」
維持しながら…

- 1) 専門家による審査（ピアレビュー）
- 2) あらゆる学問分野について研究者に対して等しく開かれた競争的資金制度
- 3) 研究者が自らの発想と構想に基づいて継続的に研究を進めることができる競争的資金制度
- 4) 研究費としての使いやすさの改善を不断に図る

科研費改革へ 《基本的な方向性》

科研費改革の具体的な
改革案、工程については、
今後更に検討される。

① 科研費の基本的な構造の改革

一定規模以上の種目へのスタディ・セクション方式の導入の検討、審査委員育成・コメントフィードバック・プレスクリーニング等の条件整備、大規模科研費の審査や評価の改善検討。

② 自らのアイディアに基づく継続的な学術研究推進の観点からの見直し

重複制限の見直し、早期終了・最終年度前年度応募の活用、ライフイベントに配慮した支援、帰国前予約採択の検討。大型設備・高度機器の共用の推進。

③ 国際ネットワーク形成の観点からの見直しと体制整備

大規模科研費における国際共同研究のための研究者の海外派遣、海外研究者の招聘等による国際社会における存在感の維持・向上。個人ベースでの多様で柔軟な国際ネットワークの形成。

④ 「学術助成基金」の充実

アワードイヤーの導入による丁寧な審査の実現と会計年度が国際共同研究の制約とならないための、「学術助成基金」の充実による研究費の成果を最大化。

⑤ 研究成果の一層の可視化と活用

科研費成果等を含むデータベースの構築等。

大学改革

連動

科研費以外の競争的資金改革

特に、**質の高い多様な学術研究を推進**するとともに、若手研究者を中心とした国際的な研究ネットワークの形成など、**卓越した知の創出力を強化**するため、**科研費の抜本改革に着手**。



1) 国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるための**国際共同研究や海外ネットワーク形成の促進** (基金額109億円、助成額48億円)

- ① 科研費に採択された若手研究者が一定期間海外の大学や研究機関で国際研究ネットワークを形成することを促進
- ② 新学術領域研究に「国際活動支援班」を創設し、我が国が強い研究領域をベースとした国際共同研究の推進や海外ネットワークの形成 (国際的に評価の高い海外研究者の招聘やポスドクの相互派遣等) を促進
- ③ 海外の優秀な日本人研究者の予約採択：海外の日本人研究者の「呼び戻し」

2) 細目にこだわらない分野融合的研究を引き出す**新しい審査方式の先導的試行 (特設分野研究) の充実** (基金額29億円、助成額14億円)

- 特設分野研究の特枠化

◎ 「学術研究助成基金」の交付対象の見直しにより研究費の成果を最大化

- ・ 拡大・融合する学術研究のフィールドを積極的に押さえ国際的なプレゼンスを確立するため、科研費の質を高める国際共同研究や分野融合研究について、投資効果を最大化するために基金を活用
- ・ 研究者の研究時間を確保するとともに、研究費の柔軟性を確保するため、基金・補助金の混合種目(「基盤研究(B)」、若手研究(A))を解消して補助金を交付することにより、複雑、煩雑な制度を簡素化

(平成27年度政府予算案資料より)

?!



どのような申請支援が最適？

- ▶ 科研費は研究活動の基盤であると同時に、研究支援者にとっても支援活動の基本となり、大学の発展（＝日本の発展）に不可欠。
- ▶ 研究力を高めるため、上位種目へのチャレンジを重点的に支援する。
- ▶ 科研費改革の方向性を捉え、今後の具体的な施策に注目。
（キーワード：イノベーション、融合、国際、人材育成）

